

Peace
Truth
LOVE

平和と真理と、愛

寄附事業のご報告

Donation News 2023

学校法人 茨城キリスト教学園
IBARAKI CHRISTIAN EDUCATION COMMUNITY

ご寄附に関するお問い合わせ

茨城キリスト教学園 寄附係

TEL.0294-52-3215 (代)

〒319-1295 茨城県日立市大みか町6-11-1

mail donation@icc.ac.jp

寄附サイト <https://www.icc.ac.jp/donation/>

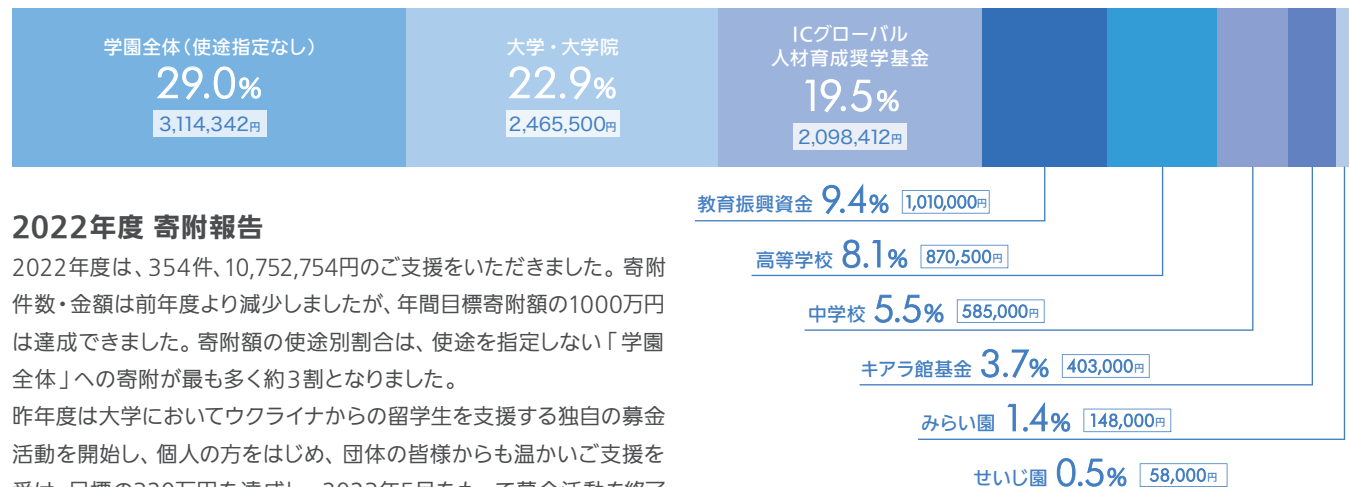


2022年度（2022年4月～2023年3月） 寄附募集実績について

寄附総額

10,752,754円

寄附の使途指定割合



2022年度 寄附報告

2022年度は、354件、10,752,754円のご支援をいただきました。寄附件数・金額は前年度より減少しましたが、年間目標寄附額の1000万円は達成できました。寄附額の使途別割合は、使途を指定しない「学園全体」への寄附が最も多く約3割となりました。

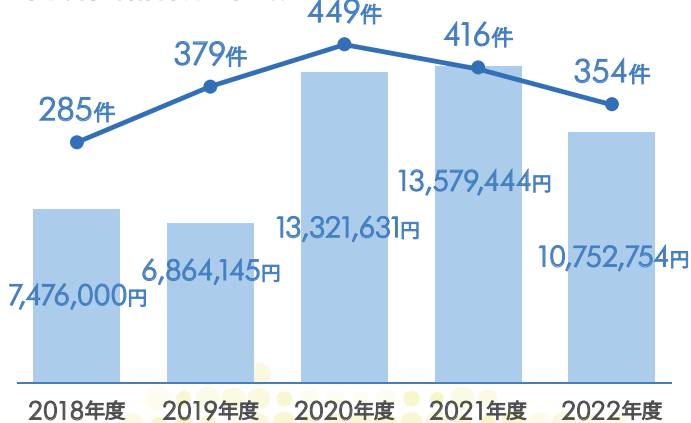
昨年度は大学においてウクライナからの留学生を支援する独自の募金活動を開始し、個人の方をはじめ、団体の皆様からも温かいご支援を受け、目標の320万円を達成し、2023年5月をもって募金活動を終了いたしました。

コロナ禍3年目を迎え国際交流も徐々に再開し、「ICグローバル人材育成奨学基金」を活用した奨学金給付事業やグローバル教育支援事業を実施いたしました。また、「IC未来サポート基金」で、大学新校舎の環境整備等を行いました。引き続き、皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。なお、本寄附事業の寄附残額は、30,138,875円（2023年3月31日現在）です。



ローガン・ファックス記念講堂の寄附者銘板に対象者（単年度累計で個人10万円以上、法人50万円以上）のご芳名を掲載しております。

年度別寄附件数・総額



2022年度 寄附事業報告

ICグローバル人材育成奨学基金

1. 海外へ留学する学生・生徒への奨学金事業

	給付人数	給付総額
大学・大学院	19名	2,300,000円

2. 海外からの留学生への奨学金事業

出身国	給付人数	給付総額
ベトナム	4名	540,000円
キルギス共和国	4名	540,000円
ウクライナ	3名	340,000円
インドネシア	3名	300,000円
イタリア	1名	140,000円
韓国	1名	100,000円

3. グローバル教育支援事業

内容	金額
「QUEST Summer Camp in NISEKO 2022」参加者17名への奨学金（高校）	680,000円
「英語Kidsリトミックオキドキミュージック」（認定こども園）	335,694円

IC未来サポート基金

1. キアラ館

内容	金額
礼拝堂 プロジェクタースクリーン購入	125,400円
礼拝堂 司会者卓購入	87,560円
諸室の椅子交換	376,860円



2. 大学・大学院

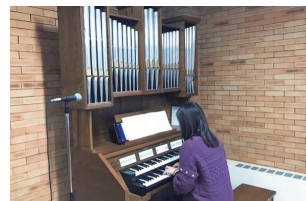
内容	金額
新1号館 デジタルサイネージ設置	473,000円
新1号館 1階 椅子・机設置	1,870,000円



3. 高等学校

内容	金額
チャーチオルガン購入	599,500円
中高コーラス部 ビデオカメラ及び三脚購入	100,000円

※「中高コーラス部 ビデオカメラ及び三脚購入」は、寄附者使途指定事業です。



4. 中学校

内容	金額
電子ピアノ購入	264,000円



5. 認定こども園せいじ園

内容	金額
保育室ロールスクリーン設置	358,600円



6. 認定こども園みらい園

内容	金額
園庭遊具設置	172,920円
アルコール消毒液購入	10,000円



7. 学園全体（使途指定なし）

内容	金額
ローガン・ファックス記念講堂 プロジェクター取替設置	3,053,820円



教育振興資金

内容	金額
施設拡充、教育活動支援等教育環境整備	1,010,000円

2022年度の本学園の主な教育環境整備については、学園HP『情報公開』における「事業報告書」をご覧ください。

事業報告書URL

https://www.icc.ac.jp/edu/about/disclosure/business_report/index.html



「キアラ館」がまもなく創建50周年！

学園のシンボルであり、多くの建築関係者を魅了する「キアラ館」(1974年 設計・白井晟一)が来年、創建50周年を迎えます。学園で行っている寄附事業にはキアラ館基金があり、皆様からのご寄附を建物の修繕や整備等に活用しています。今回は、キアラ館の魅力やこれまでの歩みについて、野口チャブレン(兼学園資料センター長)に話を伺いました。

Q1.そもそもキアラ館の「キアラ」とはどのような意味がありますか？

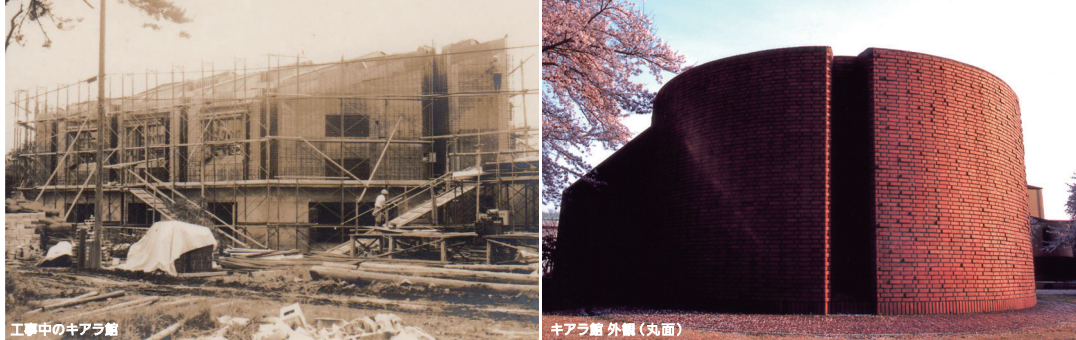
A1:キアラ館の「キアラ」とは、カトリック教会の修道女の名前にちなんでいます。英語名はクララ。そんな修道女キアラ(1194-1253年)は、イタリアはアッシジの聖フランチェスコの最初の弟子とされており、その遺体はアッシジのサンタ・キアラ聖堂に安置されています。なお、映画「ブラザー・サン シスター・ムーン」は、聖フランチェスコを題材にした青春映画ですが、ブラザー・サンは聖フランチェスコ、シスター・ムーンは聖キアラのことです。ちなみに、「キアラ館」の命名は、設計された白井晟一氏本人によるものですが、当時、短期大学の学生は女性が大勢を占めていたのので、その名が付けられたのではないのでしょうか。

Q2.多くの建築関係者が見学に来るそうですが、キアラ館の魅力は何でしょうか？

A2:キアラ館は、建築家・白井氏自身がそう語っている通り、中世の修道院をイメージしております。中世を感じさせるほの暗さの中に落ち着きがあり、外に出た際に新鮮な光を感じるように設計されています。また、外観は観る人によっては、旧約聖書に登場する「ノアの箱舟」のようだとも言われます。素朴な積み上げ方をされた煉瓦、石と木のコントラスト、中世の気品を漂わせる装飾や調度品、その魅力は枚挙に暇がありません。なお、キアラ館への細道を進んで行きますと赤レンガの丸いフォルムが見え、回り込みますとアンネのバラの花壇のある落ち着いたエントランスに行き着きます。見る角度によってさまざまに表情を変えるのもキアラ館の魅力の一つです。

Q3.キアラ館の設計者である白井晟一氏とはどのような人物なのでしょう？

A3:キアラ館の設計者であり、建築家である白井晟一氏(1905-1983年)は、ドイツのハイデルベルク大学及びフンボルト大学で哲学を学んだ異色の建築家でもあり、その作風や姿勢から「哲人建築家」とか「孤高の建築家」などと呼ばれているようです。なお、キアラ館の建造に関しては、外壁のレンガは白井晟一氏自らが製造元に発注、色調のムラをなくすため3分の2近くが返品され、その厳しさに業者も困惑した、と伝えられております。そういう意味では、自らの美意識に固執し、決して妥協を許さない建築家だったのではないのでしょうか。ちなみに、昨今、建築関係者のキアラ館見学が急増しており、建築家・白井氏に対する再評価が高まっているのかもしれない。



工事中のキアラ館

キアラ館 外観(丸面)



キアラ館 入口



キアラ館とアンネのバラ



キアラ館 1974年撮影

Q4.そのような著名な建築家がキアラ館を設計した経緯は？

A4:実は、建築家・白井晟一氏のご長男・彪介氏は本学園高等学校出身で、高校時代、堀江信男短大教授(現・大学名誉教授)とは同級生でした。短大の校舎建築の話が持ち上がった頃、草壁泰之短大学長(当時)は堀江教授との雑談の中で白井晟一のことを知り、自ら白井建築について調べたそうです。その結果、白井建築に魅了された草壁学長の強い思い入れで、日本文学科設置にあたっての新校舎を白井晟一設計事務所に依頼することになりました。そうしてできたのがキアラ館です。

Q5.キアラ館の完成が当初の予定より1年遅れたと聞いていますが、なぜですか？

A5:キアラ館創建の道は順風満帆ではありませんでした。折しもオイル・ショックの影響で物価が急騰し、建築資材の高騰で計画はいったん白紙に戻ってしまったのです。白井邸に建築中止の報告とお詫びに出向いた草壁学長は、既に仕上がっていたキアラ館の立体模型を見て、その素晴らしさに衝撃を受けました。その後、計画の再考を望む声に後押しされて、再度審議が行われ、設計の一部変更・建築費の抑制などを条件に教授会の賛同を得ることができたといえます。それでも当初の予算の約3倍の建築費がかかったとのことでした。

※ 紙面の都合でキアラ館特集記事はここまでとなります。
この続きは、「Donation News2024」(2024年7月発行予定)でお届けします。

キアラ館基金に
寄附をする



ICグローバル人材育成奨学基金による奨学生メッセージ

大学留学生

パク・ヒョンジュさん
明知大学校(韓国)



韓国のソウルから来ました。私に奨学金をくださったことに対して深く感謝申し上げます。お陰様で生活に不便がなく、交通費、食費などにも大きく役立ちました。本当にありがとうございます。母国に帰っても、もっと精進して社会に善良な影響力を与えることができる人になれるよう頑張ります。末永いご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

大学留学生

グエン・アイン・ティさん
ホーチミン市外国語情報技術大学(ベトナム)



この度は、奨学金のご支援をいただき、誠にありがとうございます。私の家の平均年収は普通で、少しでも両親の経済的負担を減らしたいと思い、奨学金を応援して頂いた時、非常に嬉しかったです。その上、奨学生としてご採用いただけのおかげで楽しく毎日を過ごすことができました。生活費の一部を補填するためにアルバイトをしていますが、奨学金のご支援があり、今ではもっと学業に集中して取り組んでおります。皆様の御厚意と期待を無駄にすることがないよう、これからも頑張っていきたいと思います。最後にもう一度心よりお礼申し上げます。

長期交換
留学生

大学文学部 現代英語学科 4年
田所 琴衣さん
オクラホマクリスチャン大学(アメリカ)に留学



ICグローバル人材育成奨学基金を利用して、アメリカに半年間留学をしました。現地の学生と同じ授業や課題をこなし英語力を磨いてきた学校生活、Home comingやThanksgivingなどアメリカでしか経験できない行事を味わうことができたこと、すべてが刺激的でかけがえのない思い出です。何よりも国籍や文化、宗教の違いを超えて繋がりができた友人は私にとって大きな財産です。将来は世界中の多くの方々と関わり続けていくことができる仕事に就きたいと考えています。

大学留学生

アブディルダエフ・サマツトさん
ビシケク国立大学(キルギス)



茨城キリスト教大学からもらった奨学金が本当に助けてくれました。少し旅行することができました、食べてみたかった食べ物を食べてみました、そして一番大事なのが家賃を払うのがもっとも簡単になりました。留学生生活も奨学金のおかげでもっと面白くなりました。茨城キリスト教大学が留学生を手伝うことに心より感謝申し上げます。

大学留学生

ムハammad・アリフ・アルファティーさん
リアウ大学(インドネシア)



奨学金をくださって本当にありがとうございました。私はリアウ大学から奨学金をもらっていませんでしたので、本当に助かりました。以前は茨城キリスト教大学からも奨学金をもらえないと思っていたので、日本に来る前にお金をたくさん用意しましたが、なかなか足りなくて、奨学金がもらえたと思ったら本当に喜びました。生活費がもっと楽になりました。この奨学金のお金は3ヶ月分の家賃に使いました。本当に感謝しています。ありがとうございます。

夏期海外
語学研修生

大学文学部 児童教育学科幼児保育専攻 4年
田尻 万尋さん
明知大学校(韓国)に留学



この度、私が留学にすることにあってご支援をいただきありがとうございます。大学に入り語学を学ぶ楽しさを知り熱中して勉強をしました。そして自分がどこまで通用するのか現地に行き確かめたいと思っていました。その際にICグローバル人材育成奨学基金を知り、留学を決める後押しの一つとなりました。とても刺激ある経験ができ将来海外で働きたい思いも強くなりました。皆様のおかげで貴重な体験をできたこと重ねてお礼申し上げます。

※紙面の内容は取材当時の情報です。